

9月26日 大阪市総合教育会議

大阪市における幼児教育改革に向けた提言

こぐま会代表 久野泰可

- 1 改革に向けて、まず、現在抱えている問題を明確にする
- 2 将来の学習活動の基礎として「幼児期の基礎教育」をどう位置付けるかを明確にする
- 3 方針書に、現場の感覚をどう盛り込むか大事であり、具体性が必要である
幼稚園教育要領や保育所保育指針のような漠然とした表現は避ける
- 4 学習の「到達目標」を明確に表現する
- 5 そのために、現在の子どもたちの発達度・理解度を詳しく調査し、データとして蓄積しておく
- 6 教育の成果をチェックする「発達診断」は定期的に行う
- 7 幼小一貫教育の理念に立ち、小学校教育との継続性を生かすためにも、現在の小学校における「学力問題」を明らかにする。その上で、問題解決のために幼児期に何をすべきか、何ができるかを考え、実践する。また、幼児期の教育に携わる現場の教師は、小学校の学習内容をしっかり把握しておくことが大事である。
- 8 幼児教育改革で一番難しいのは、教師の人材育成である。改革の担い手は、現場の教師であることを明確に位置付け、幼児教育センターの重要な役割として、「教師の指導力向上」を掲げることが大事である